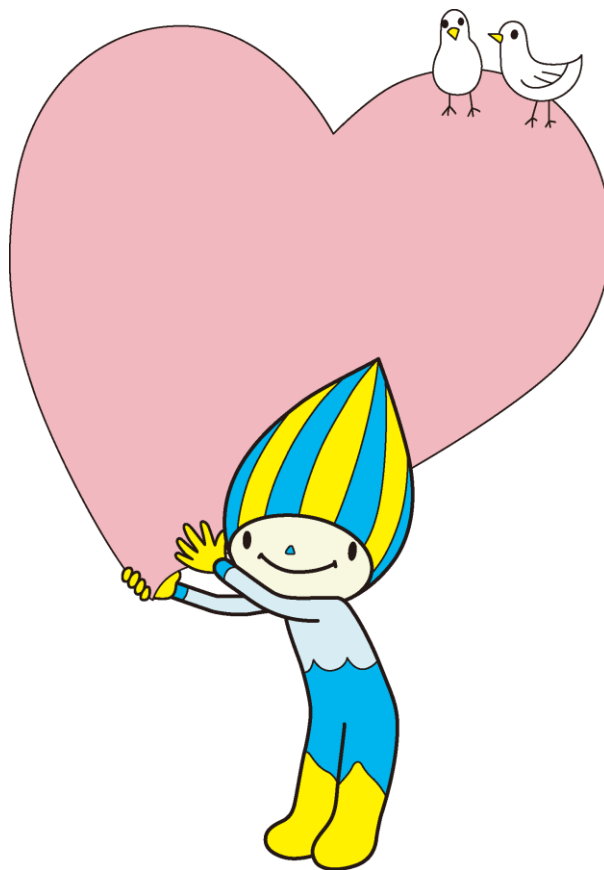


支援をつなぐ ～事例編～





就学前 ↓ 小学校

本人	幼稚園 年長児(5歳)
家族構成	父、母、本人
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・家族以外の前では、全く話さず、固まってしまう。 ・園では、意思表示はするが、首を振って反応をするだけである。 ・家庭では、喜怒哀楽の感情を出し、歌ったり、踊ったりしている。 ・医療機関、相談機関にはかかっていない。
保護者の願い	・いずれ、みんなの前でも話せるだろうから、みんなと一緒に生活をさせたい。

小学校へ行っても、友達と一緒に生活、学習できるかな…。

なぜ？ どうしたら？ いつになったら、話すの？
どこの医療にかかればいいの？

<岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター>

- ・発達にかかわる相談について、保護者に紹介する。
- ・地域で相談できる相談機関を紹介してもらう。

<市町子育て、福祉担当課>

- ・発達相談会の日時、内容等、情報を得て、保護者に紹介する。
- ・乳幼児健診で発達相談をする。

<療育機関>

- ・発達にかかわる相談や、療育指導を通して、保護者と本人への支援を一緒に考える。

親として、どう関わったらいいの？

<医療機関>

- ・有効な支援について、医師からの助言をもらう。

<市町教育委員会>

- ・就学相談会の日時、内容等の情報を得て、保護者に紹介する。
- ・発達支援専門家チームに巡回を依頼したり、望ましい学びの場を検討したりする。

<就学先の小学校>

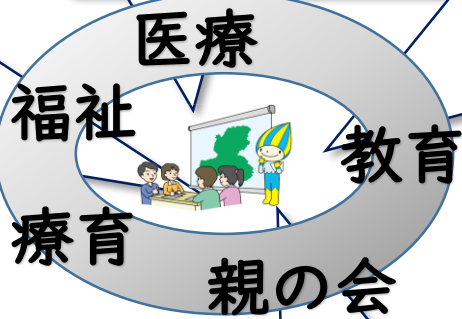
- ・特別支援教育コーディネーターと連絡を取り、実態、支援の方向性などを共有する。

<特別支援学校、コア・スクール>

- ・センター的機能を活用し、支援の在り方等助言を受ける。

<園内教育支援委員会>

- ・園内での支援体制、支援の方向性等、共通理解を図る。



<親の会>

- ・親の会を紹介し、ネットワークづくりにつなげる。

【園内での支援、見届け】～話すことを強要せず、その子の存在価値を認める～

<本人に>

- 自己表現したり、首を振るといった意思表示をしたりしたことを、認める。ほめる。
- 本人の思いや、意見を大切にしながら取り組むことを決める。
- 意思表示しやすい人、見守る人等、役割分担をしながら、信頼関係の構築をしていく。
- 他のコミュニケーションツールを用意する。
 - ・直接言葉で話さなくても、質問に答えられるツールを用意する。(Yes/Noカード等、選択できるもの)
- 思わず声が出るような、内言語が高まるような、感動体験を増やす。言葉でなくても、感動的に発する言葉を聞き取る。

<仲間に>

- 当番活動は複数人で行うなど、話すことへの負担を軽減し、友達との関わりを楽しめるようにする。また、周りの子どもたちの理解を深めていく。

<保護者に>

- 家庭との連絡を密にし、家庭でできていることを園でも広げる。
 - ・例) 家で歌う歌を、園でも歌う 等

【これからのステージに向けて、考えたいこと】

<本人に対して>

- 好きなことが存分にできる環境を考えていく。
- リラックスできる学びの場の設定を考える。

<保護者に対して>

- 密に連絡を取ったり、保護者の活動など、家族ぐるみで大人が楽しく活動する場面を意図的にもったりする。
- 親の会で、同じ悩みを分かり合えるネットワークをもつ。

<小学校就学に向けて>

- 幼小の引継ぎ会を設定し、実態、有効な支援等を引継ぐとともに、手立てをより有効にするための学びの場を検討する。
- 必要であれば、発達検査などを実施し、有効な支援を探る。



小学校 ↓ 中学校

少しでも苦手意識を克服して、
学習に取り組んでほしい…。

本人	小学校 第3学年(通常の学級に在籍)
家族構成	祖母、父、母、本人、妹
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・読書が好きで、すらすらと音読ができる。九九も間違えずにすらすらと言える。 ・文字を書くことを嫌がり、書いた文字も、間違っていることが多い。 ・興味のある話題には事欠かないが、作文になると、抵抗感を示す。 ・宿題では、何度も書き直し、かなりの時間をかけて取り組み、書く練習を何度も繰り返すうち、練習のノートを見るだけで、破ってしまうようになった。 ・小2の後半から、登校を渋るようになった。
保護者の願い	・同じクラスの子たちと同じように、書けるようになってほしい。

<市町教育委員会>

- ・発達支援専門家チームに巡回を依頼し、通
指導教室での支援が必要かどうか、通常の学
級でできる支援は何か、相談する。

<校内教育支援委員会>

- ・本人の状況、どのような支援ができるのか、
見立てる。合理的配慮について検討する。
- ・ケース会議に参加してもらうSC、特別支援学
校のコーディネーターには、事前に本人の様
子を見る機会を設ける。

<特別支援学校、コア・スクール>

- ・センター的機能を活用し、支援の在り方等助
言を受ける。

なぜ？ 書けない原因は…？
どうしたら書けるようになるの？
どこの医療にかかればいいの？

教育



親の会

福祉

医療

元気に学校に登校してほしい…。

<市町の適応指導教室>

- ・本人の居場所の一つとして、
検討する。

<岐阜県中央子ども相談センター>

<岐阜県発達障害者支援センター>

<岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター>

- ・必要に応じて、発達にかかわる相談について、
保護者に紹介する。
- ・書字の困り感だけでなく、見え方の特性等、
発達にかかわる検査を勧める。

<医療機関>

- ・必要に応じて、受診を勧める。
- ・本人の状態像や有効な支援について検査等を実施し
てもらい、医師からの助言をもらう。

親として、どう関わったらいいの？

<親の会>

- ・親の会を紹介し、ネットワークづくりにつなげる。

【校内での支援、見届け】～まずできることから、個への支援を～

<本人への支援(書字の苦手さに関する支援)>

- 穴あきプリント、マス目の大きなノート、ワークシートの活用など、教材を工夫する。
- 得意な面を大いに認め、よさに目を向け、自己理解につなげる。

<集団に対して>

- 本人のよさを共有しながら、よりよい関わり方や、対応への理解を促す。

<校内支援体制づくり>

- SCや保健室、支援員などと連携を取り、本人が相談できる体制を作る。

<保護者への支援(子の理解と支援の共有)>

- じっくりと保護者の話を聞き取り、信頼関係を構築する。本人の日々の成長を認め、伝えながら、保護者の不安な思いをくみ取り、連携していく。
- 本人の理解を深め、宿題の量や時間等、合理的配慮について合意形成を図る。

<合理的配慮の提供>

- 在籍学級では、タブレット等で板書の撮影、音声入力アプリ、ワープロ機能等、ICTを活用したり、課題の量や内容を調節するなどの合理的配慮を行う。

【これからのステージに向けて、考えたいこと】

“3つの「つ」”～個別的教育支援計画をつくる、つかう、つなぐ～

<個別的教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用>

- 支援の方向性、指導目標を指導内容等、本人・保護者と合意形成を図り、作成する。過度な負担がかからないようにする。

<本人に対して>

- 自分に必要な合理的配慮を表明していくことができるよう、自己理解、受容を進めていく。
- LD・ADHD等通級指導教室の指導を受ける場合は、担当者と連携を図りながら、特性に応じた学習法の習得や、心理的な安定を図り、自己肯定感が高まる指導を行う。

<今後に向けて>

- 個別的教育支援計画、個別の指導計画を確実に引継ぐ。
- 高等学校の入試や入学後の合理的配慮についても視野に入れ、日々、合理的配慮の実施、検討を行う。



中学校 ↓ 進学

本人	中学校 第2学年(通常の学級に在籍)
家族構成	父、母、兄、本人
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・情緒が不安定で、自己中心的な行動で学級からは孤立している。 ・規範意識が低く、自分の非を認めず他にすり替えようとする。 ・自分の感情をコントロールできず、カッとなると自分を押さえることができず、すぐにキレル。 ・仲間への暴力、教師に対する暴言、器物の破損がたびたびある。
本人・保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・(本人)「自分なんて、どうでもいい」と話す。 ・(保護者)兄と同じように、高等学校へ進学してほしい。

どうして、カッとなるの…?
学校でできる支援は…?

<市町教育委員会>

- ・発達支援専門家チームに巡回を依頼し、支援の在り方、支援の場について相談する。

<特別支援学校、コア・スクール>

- ・生徒の状態像を参観し、見立ててもらい、校内でできる支援の在り方等、助言を受ける。

<校内教育支援委員会>

- ・ケース会議に参加してもらい、SC、特別支援学校のコーディネーターには、事前に本人の様子を見る機会を設ける。

これまで、どのような支援を受けていたのか…。

<出身の小学校>

- ・小学校時代の様子について聞き取り、支援に生かす。

特別支援教育対応なの…?
生徒指導対応なの…?



<岐阜県中央子ども相談センター>

<岐阜県発達障害者支援センター>

<岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター>

<地域の支援センター>

- ・発達にかかわる相談について、保護者に紹介する。カウンセリングを勧める。(保護者支援)
- ・本人のアセスメントを依頼する。

学校と家庭で、どのように支援したらいいのか…。

暴力にどう対応したら…。

<警察>

- ・必要に応じて、暴力や器物破損等への対応について相談する。本人に説諭してもらう。

<医療機関>

- ・必要に応じて、受診を勧める。
- ・情緒不安の部分について診察してもらい、服薬や今後の対応(学校、家庭)を相談する。

【校内での支援、見届け】～言動の背景を探り、環境を整える～

<校内支援体制づくり>

- 暴力、器物破損等が起こった背景、因果関係や、一方で落ち着いているときの様子など、本人の状態像を把握・分析する。
- 医療、相談機関等からの助言、本人の悩み、指導の困難さを、全職員が理解する。それぞれの立場でどのように関わるか、指導の方向性を共通理解する。
- 医療、相談機関等からの助言を受け、通級指導教室、特別支援学級、相談室等、支援の場を検討する。

<本人に対して>

- 情緒が不安定になったときの対処法を本人と一緒に考える。
- ①個別学習できる場、②情緒不安定になることを回避できる環境、③クールダウンできる環境、等、本人と相談しながら環境を整える。

<集団に対して>

- 学級やクラブ活動等で孤立しないよう、担任の温かな受入れや、絆づくり、居場所づくりを大切にする。

<保護者に対して>

- 保護者も本人に対する肯定的な視点がもてるよう、よさを伝えて協力関係を築いていく。

【これからのステージに向けて、考えたいこと】

<自己理解を促す>

- 本人が自分の特性を理解できるようにしていく。併せて、本人のよさも理解できるようにし、自尊感情を高めていく。
- 自分に必要な支援を求められるようにする。
- ソーシャルスキルトレーニングを導入する。

<進路選択の支援>

- 具体的な進路の情報を、本人、保護者に伝える。本人の状態像に合った進学先の選択肢を考える。(見学、相談)
- 高校進学だけでなく、次のステップについても本人、保護者とともに考えていく。
- 進学先への丁寧な引継ぎをする。

<保護者への継続支援>

- 医療や相談機関など、継続して相談できる機関、人を確保する。



高等学校



大学(就職)

本人	高等学校 第1学年
家族構成	父、本人(幼少期に両親が離婚)
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の低学年の頃は、学力は平均的であったが、学年が上がるにつれ、学力は下がっていった。 ・吃音があり、自分から話しかけることは少なかった。小・中学校の頃は、教室で静かに過ごすことが多かったが、単学級の小さな学校で、周りの理解もあり、穏やかに過ごしているように見えた。 ・父の仕事や送迎の都合がつかず、言語通級指導教室へ通っていない。 ・高等学校に進学し、仲間に思い切って話しかけたところ、言葉のつかえをからかわれ、笑われてしまった。 ・以来、登校はできているが、教室には入らず、保健室で過ごしている。
本人・保護者の願い	(本人)・進学、もしくは就職して、家計を支えられるようにしたい。 (保護者)・元気に学校生活を送ってほしい。

元気に登校して、学習してほしい…。

<校内教育支援委員会>

- ・ 本人の特性、つまづきを把握する。
- ・ 学力だけでなく、最終的に目指す姿を明確にもち、今できる支援を考える。
- ・ SC、SWと連携を図る。

<特別支援学校、コア・スクール>

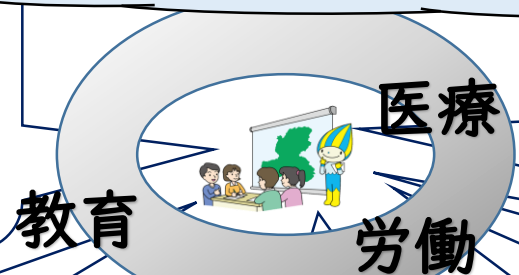
- ・ センターの機能を活用し、支援の在り方等助言を受ける。

<岐阜県教育委員会 学校安全課

教育支援センターG-プレイス>
(適応指導教室)

- ・ 必要に応じて、見学・相談・通室希望等を電話申し込みをする。
- ・ <支援内容>学習支援・進路相談・教育相談・適応指導 等

周りの仲間と、どうやってコミュニケーションをとったらいいの…。



<医療機関>

- ・ 必要に応じて、受診を勧める。
- ・ 進行、症状など、吃音の正しい評価をしてもらう。
- ・ 言語聴覚士にかかり、吃音について、本人、保護者が正しい理解ができるようにする。

<当事者グループ>

- ・ 同じ悩みをもち、分かり合える関係作りにつなげ、自己理解を深められるようにする。

進路先でも、やっていけるのかな…。

<大学等>

- ・ 大学で受けられる支援について、オープンキャンパスで学生支援室から生徒とともに情報を集め、進路選択に生かす。

<岐阜公共職業安定所>

- ・ 就職プログラムを活用し、就労で心配されることを相談する。(高等学校第3学年から相談ができる。)

【校内での支援、見届け】～自己理解を深め、自立していくための支援～

<校内支援体制づくり>

- 実態把握を行う中で、明らかになった課題を基に、本人や保護者との合意を図りながら、学習量、学習内容、学習方法など、学習面での調整を行う。
- 医療、相談機関等からの助言、本人の悩み、指導の方向性を、全職員が理解する。

<本人に対して>

- 得意、不得意、性格など自分の特性について自己理解を促し、自分に合った進路を選択し、自立に向けたスキルを身に付けられるよう、教師も共に取り組む。

<集団に対して>

- 得意なこと生かして活躍できる場を設定するなど、学級内で孤立しないよう、担任の温かな受入れや、クラス全体での絆づくり、居場所づくりに努める。周りの生徒への理解を促す。

<保護者に対して>

- 本人の自立に向けて、保護者の心に丁寧に寄り添う。
- 本人の状態像を共有する。本人の特性に合った進学先、就職先を紹介する。

【これからのステージに向けて、考えたいこと】

<本人に対して>

- 得意なことを生かし、不得意なことに対しては必要な支援を求められるように、自己理解を深めていく。
- 就労を見据え、必要に応じて、療育手帳等の取得を勧める。

<保護者に対して>

- 今後も身近な存在である保護者に、本人が自立していくための支援を依頼する。

<進路先との連携>

- 企業や進学先への確実な引継ぎを行い、理解を求める。
- 大学にある学生支援室から情報を得る。